

平成22年度秋学期 島根県立大学公開講座

【講座1】石見に生きる～石見の元氣人が話す

会場：島根県立大学講義・研究棟 中講義室3

石見地域で活躍する方々をお招きし、活動紹介や具体的事例を通して、地域の魅力や活性化のヒントを探索します。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
1	福原庄史 (NPO法人 ゆうきびと会 長)	山村の豊かさを実現する自給的暮らし	1. 有機農業による自給運動の背景 2. 有機農業による自給的暮らしの意義 (1) 暮らしの見直し (2) 食べ方の反省 (3) 本来あるべき「農業」「食べ方」「暮らし方の追求」 3. 山村の課題 (1) 山間地農業の方向性 (2) 集落維持と所得確保 (3) 高齢者の知恵・知識の継承	11/10 (水) 18:20～19:50
2	岡田久樹 (日本海信用 金庫理事長)	ふるさと再生と地域金融	1980年代の石見地方は災害の連続でした。その都度地域の方々は、失われた資産の回復を求め、大変なご苦労をされました。復旧から復興へ、そして明日につながる街づくりへと続けられた活動は、ふるさと再生そのものでした。一方2000年代に入ってから、様々な社会現象により、地方は確実に衰退を続けています。今まさに新しいふるさとづくりが求められているのです。この間常に地域と行動を伴いして来た地域金融の立場から、いくらかの提案ができればと考えています。	11/24 (水) 18:20～19:50
3	松永桂子 (浜田キャンパス)	中山間地域と石見の未来像	石見地域では、「自立」を目指した活動が活発化しつつあります。長らく、人口減と高齢化に悩まされていたこの地でも、全国的にも注目される「地域おこし」の事例が相次いでいます。この1年間、高津川流域の益田市、津和野町、吉賀町の3市町で地域おこしに取り組む人びと約100人を訪ね歩いてきました。そこから見えてきた、石見地域の将来像について考えてみようと思います。	12/1 (水) 18:20～19:50

【講座2】日本語と日本語教育

本講座では、日本語自体に興味を持っている方、これから外国人に日本語を教えてみたい方のために「外国語としての日本語」の基礎知識とその教え方についてお話しします。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
4	犬塚優司 (浜田キャンパス)	日本語はどんな言語か	いつも使っている日本語ですが、日本語はどんな言語なのか考えたことがありますか。日本語は、英語、中国語、韓国語などの他の言語と比べてどのような特徴を持っているのでしょうか。日本語の音声、文法、意味、表記などの分野ごとの特徴について、できるだけ分かりやすく解説していきます。	12/8 (水) 18:20～19:50
5	小林明子 (浜田キャンパス)	外国人としての日本語の教え方—こそあど—	日本語を外国人に教えたり、学習者の誤用の原因を考えたりすることで、これまで気づけなかった日本語の特徴が見えてきます。本講座では、日本語学習者が習う初級文法の一つとして指示詞(「これ」「それ」「あれ」「どれ」)を取り上げ、その特徴と教え方についてお話しします。	12/15 (水) 18:20～19:50
6	小林明子 (浜田キャンパス)	外国人としての日本語の教え方—形容詞—	2回目に続いて、日本語学習者が習う初級文法として形容詞を取り上げ、解説していきます。日本語の形容詞の特徴と教え方、学習者によくある間違いとその原因などについてみなさんと一緒に考えながら進めて行きたいと思っています。	12/22 (水) 18:20～19:50

【講座3】本と図書館のWaku2(わくわく)ツアー

春学期は図書館に焦点を当てた講座を開講しましたが、秋学期は本の世界を旅する講座を開講します。ドイツの思想家ハンナ・アレント『暗い時代の人々』を通して多彩な人々との交流と、17世紀フランスの詩人ラ・フォンテーヌの『寓話』からの教訓をご紹介します。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
7	村井 洋 (浜田キャンパス)	ハンナ・アレントと旅する二十世紀(第1回)	ドイツに生まれアメリカで没した思想家ハンナ・アレントは今もなお多くの人々の注目を集めている存在ですが、ヒトラー政権に追われ「靴よりもたびたび国を換え」た前半生を送りました。その間、出会った人々の人物論を集めたのがエッセイ集『暗い時代の人々』です。この中に登場する人々：ヤスパースなどの哲学者、プレヒトなどの詩人、童話も書いたジャレルなど多彩な人々とアレントの交流を紹介しながらアレントの生涯を辿ります。	11/20 (土) 13:50～15:20
8		ハンナ・アレントと旅する二十世紀(第2回)		12/4 (土) 13:50～15:20
9	渡部 望 (浜田キャンパス)	ラ・フォンテーヌの『寓話』から考える	17世紀フランスの詩人ラ・フォンテーヌがイソップ寓話などから題材を借りて書いた『寓話』は、人間の本质と社会の現実を端正に描いた傑作です。今日でもフランスの子供たちは『寓話』を暗記させられ、フランス的教養の基盤となっています。この講座ではいくつかの寓話を取り上げ、その教訓について考えてみます。	12/18 (土) 13:50～15:20